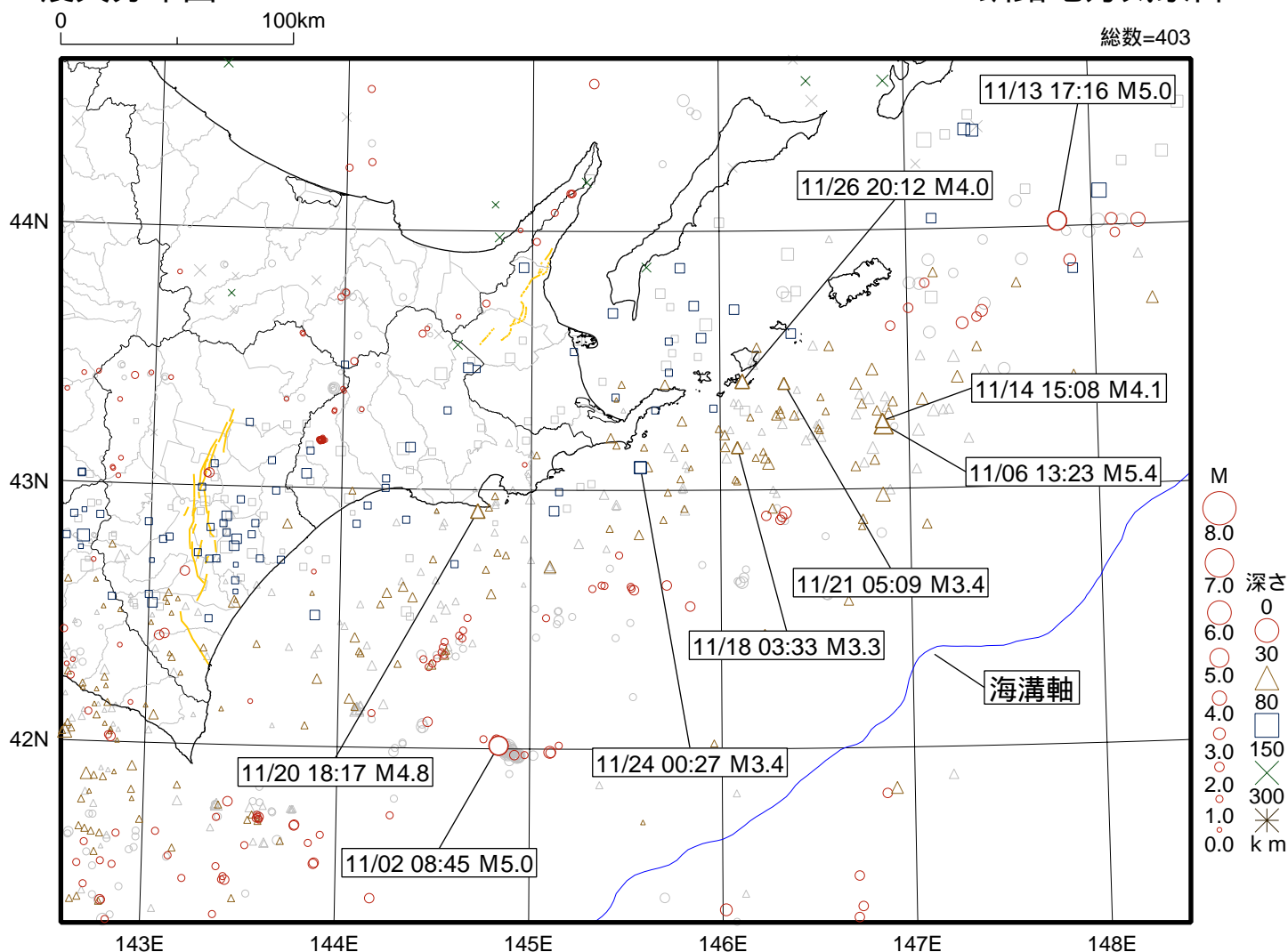


# 釧路・根室・十勝地方の地震活動図

2022年11月1日～2022年11月30日

震央分布図

釧路地方気象台



## 地震概況（2022年11月）

この期間、釧路・根室・十勝地方の震度観測点で震度1以上を観測した地震は11回(10月は10回)で主な地震は次のとおりです(詳細は「釧路・根室・十勝地方で震度1以上を観測した地震の表」を参照)。

6日13時23分、北海道東方沖の地震(M5.4、深さ52km)により、根室市で震度3を観測したほか、釧路・根室・十勝地方で震度2～1を観測しました。

14日17時08分、三重県南東沖を震源とする地震(M6.4、深さ362km、震央分布図の範囲外)により、釧路市、別海町、中札内村で震度1を観測しました。この地震は日本の下に沈み込む太平洋プレートのかかなり深い場所で発生したことにより、地震波が太平洋プレートに沿って揺れが弱まらずに伝わったため、北海道などの太平洋側で大きく揺れる「異常震域」と呼ばれる震度分布になりました。

20日18時17分、釧路沖の地震(M4.8、深さ57km)により、釧路市、厚岸町、釧路町、標茶町、鶴居村、浜中町、根室市、別海町で震度3を観測したほか、釧路・根室・十勝地方で震度2～1を観測しました。

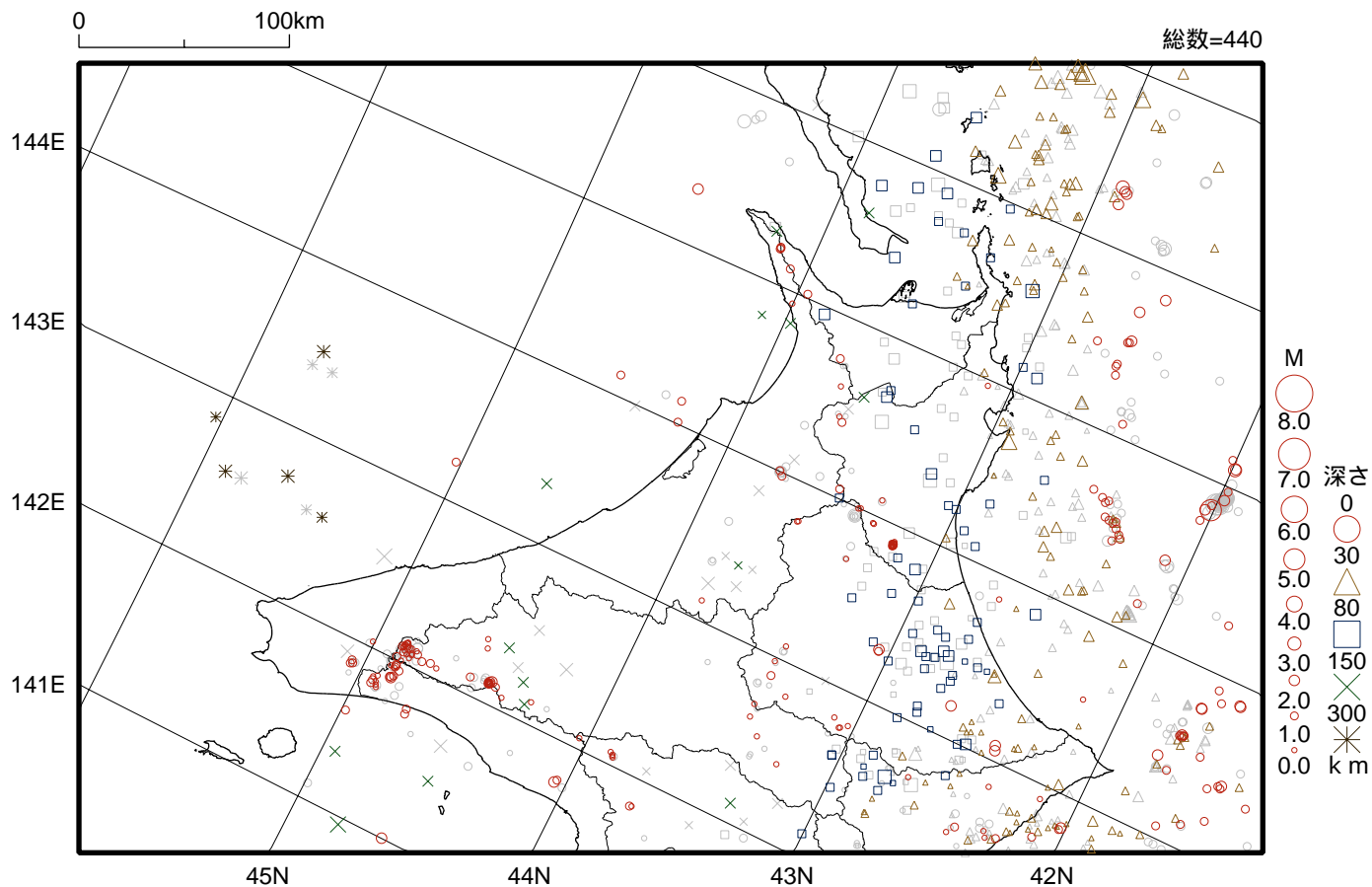
この活動図は、釧路地方気象台のホームページに掲載しています。

[https://www.data.jma.go.jp/kushiro/bosai/earthquake/earthquake\\_data.html](https://www.data.jma.go.jp/kushiro/bosai/earthquake/earthquake_data.html)

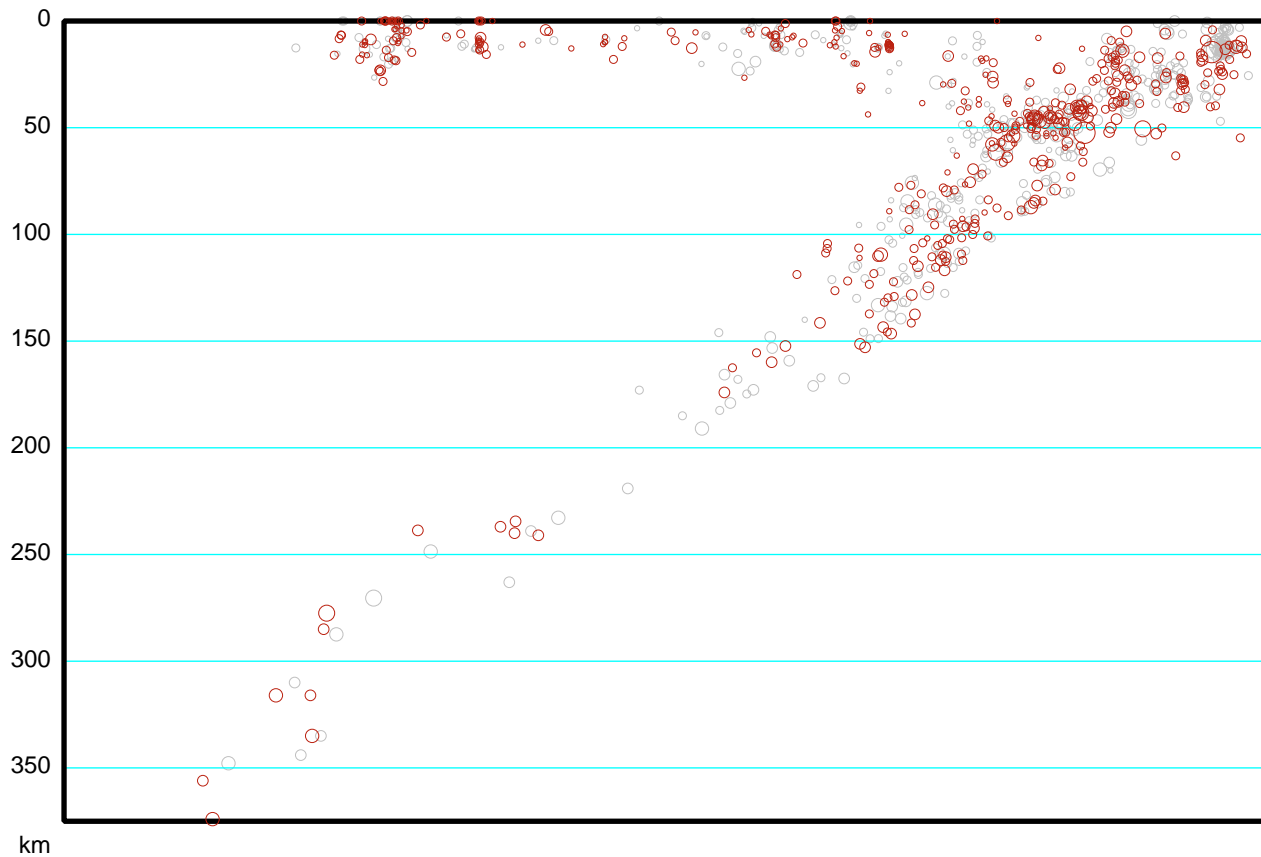
この資料に関する問い合わせ先 釧路地方気象台 TEL 0154-31-5110

2022年11月1日 ~ 2022年11月30日

震央分布図



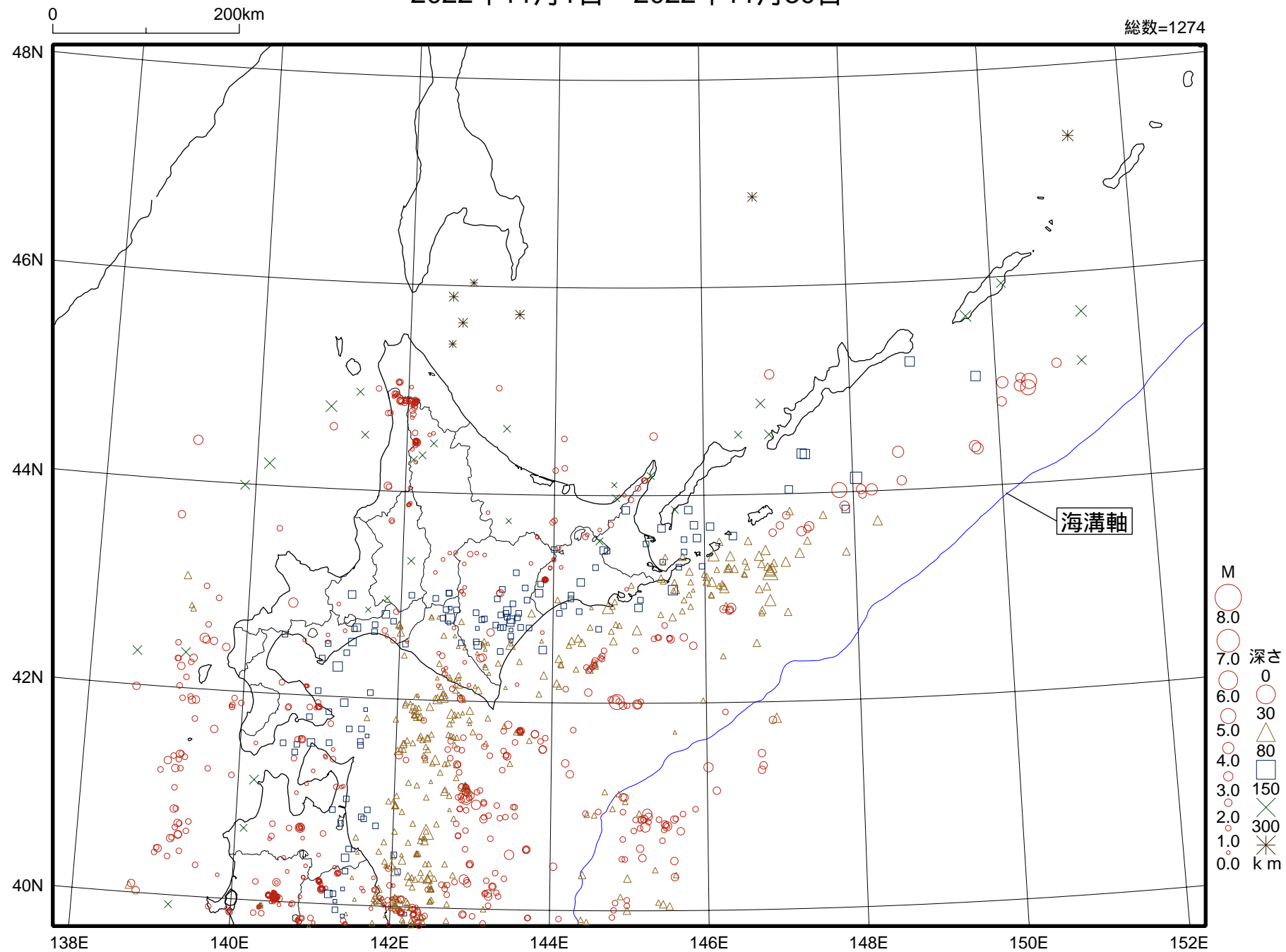
断面図



# 北海道の地震活動図

2022年11月1日 ~ 2022年11月30日

震央分布図



# 釧路・根室・十勝地方で震度1以上を観測した地震の表(2022年11月)

年月日 地方	時分 震度	震央地名 震度観測点名	北緯(N)	東経(E)	深さ(km)	規模(M)
2022年11月2日 釧路地方	08時45分 震度1	釧路沖 厚岸町真栄*(11) 標茶町塘路*(05) 白糠町西1条*(09)	42°00.7 N	144°50.2 E	15 km	M5.0
2022年11月6日 根室地方  釧路地方  十勝地方	13時23分 震度3 震度2  震度1 震度2 震度1 震度1	北海道東方沖 根室市落石東*(28) 標津町北2条*(15) 別海町常盤(16) 別海町本別海*(16) 根室市厚床*(19) 根室市瑤瑠*(21) 羅臼町緑町*(06) 羅臼町岬町*(10) 根室市弥栄(13) 根室市豊里(12) 根室市牧の内*(14) 釧路市黒金町*(16) 釧路町別保*(18) 厚岸町真栄*(18) 釧路市幸町(10) 厚岸町尾幌(10) 浜中町湯沸(09) 標茶町川上*(08) 標茶町塘路*(14) 鶴居村鶴居東*(07) 白糠町西1条*(12) 十勝大樹町生花*(05)	43°14.8 N	146°51.9 E	52 km	M5.4
2022年11月13日 釧路地方 根室地方	17時16分 震度1 震度1	択捉島南東沖 標茶町塘路*(05) 標津町北2条*(10) 別海町常盤(10) 根室市落石東*(09) 根室市瑤瑠*(06)	44°01.1 N	147°48.8 E	0 km	M5.0
2022年11月14日 根室地方	15時08分 震度1	北海道東方沖 根室市落石東*(06)	43°15.7 N	146°51.6 E	43 km	M4.1
2022年11月14日 十勝地方 釧路地方 根室地方	17時08分 震度1 震度1 震度1	三重県南東沖 中札内村東2条*(06) 釧路市阿寒町阿寒湖温泉*(11) 別海町常盤(06)	33°50.4 N	137°25.4 E	362 km	M6.4
2022年11月17日 十勝地方 釧路地方 根室地方	09時28分 震度1 震度1 震度1	青森県東方沖 十勝大樹町生花*(05) 標茶町塘路*(06) 標津町北2条*(07) 根室市瑤瑠*(05)	40°43.8 N	142°25.2 E	64 km	M5.0
2022年11月18日 根室地方	03時33分 震度1	根室半島南東沖 根室市落石東*(06)	43°09.8 N	146°05.4 E	45 km	M3.3
2022年11月20日 釧路地方  根室地方  十勝地方	18時17分 震度3 震度2  震度1 震度3 震度2 震度1 震度2 震度1	釧路沖 釧路市幸町(27) 釧路市黒金町*(34) 釧路町別保*(26) 厚岸町尾幌(30) 浜中町茶内*(26) 標茶町川上*(27) 標茶町塘路*(33) 鶴居村鶴居東*(26) 弟子屈町美里(16) 弟子屈町弟子屈*(22) 釧路市阿寒町中央*(22) 釧路市阿寒町阿寒湖温泉*(18) 釧路市音別町中園*(20) 厚岸町真栄*(20) 白糠町西1条*(19) 弟子屈町サウンチサップ*(12) 釧路市音別町尺別(11) 浜中町湯沸(14) 別海町常盤(25) 別海町西春別*(25) 根室市厚床*(25) 中標津町養老牛(18) 中標津町丸山*(22) 標津町北2条*(20) 羅臼町緑町*(15) 別海町本別海*(22) 根室市落石東*(21) 根室市瑤瑠*(18) 標津町古多糠(08) 標津町薫別*(05) 羅臼町春日(07) 羅臼町岬町*(14) 根室市牧の内*(12) 足寄町上螺湾(19) 足寄町南1条*(15) 十勝池田町西1条*(17) 浦幌町桜町*(21) 十勝大樹町生花*(19) 鹿追町東町*(11) 新得町2条*(13) 陸別町陸別*(07) 十勝清水町南4条(13) 幕別町忠類錦町*(09) 幕別町本町*(09) 豊頃町茂岩本町*(08) 本別町北2丁目(11) 本別町向陽町*(13) 中札内村東2条*(06) 更別村更別*(12) 十勝大樹町東本通*(09) 広尾町並木通(05)	42°55.0 N	144°43.1 E	57 km	M4.8
2022年11月21日 根室地方	05時09分 震度1	根室半島南東沖 根室市落石東*(07)	43°24.6 N	146°20.3 E	54 km	M3.4
2022年11月24日 根室地方	00時27分 震度1	根室半島南東沖 根室市厚床*(06)	43°05.2 N	145°34.6 E	87 km	M3.4
2022年11月26日 根室地方	20時12分 震度1	根室半島南東沖 標津町北2条*(05) 根室市牧の内*(11) 根室市落石東*(05) 根室市瑤瑠*(12)	43°25.1 N	146°07.1 E	62 km	M4.0

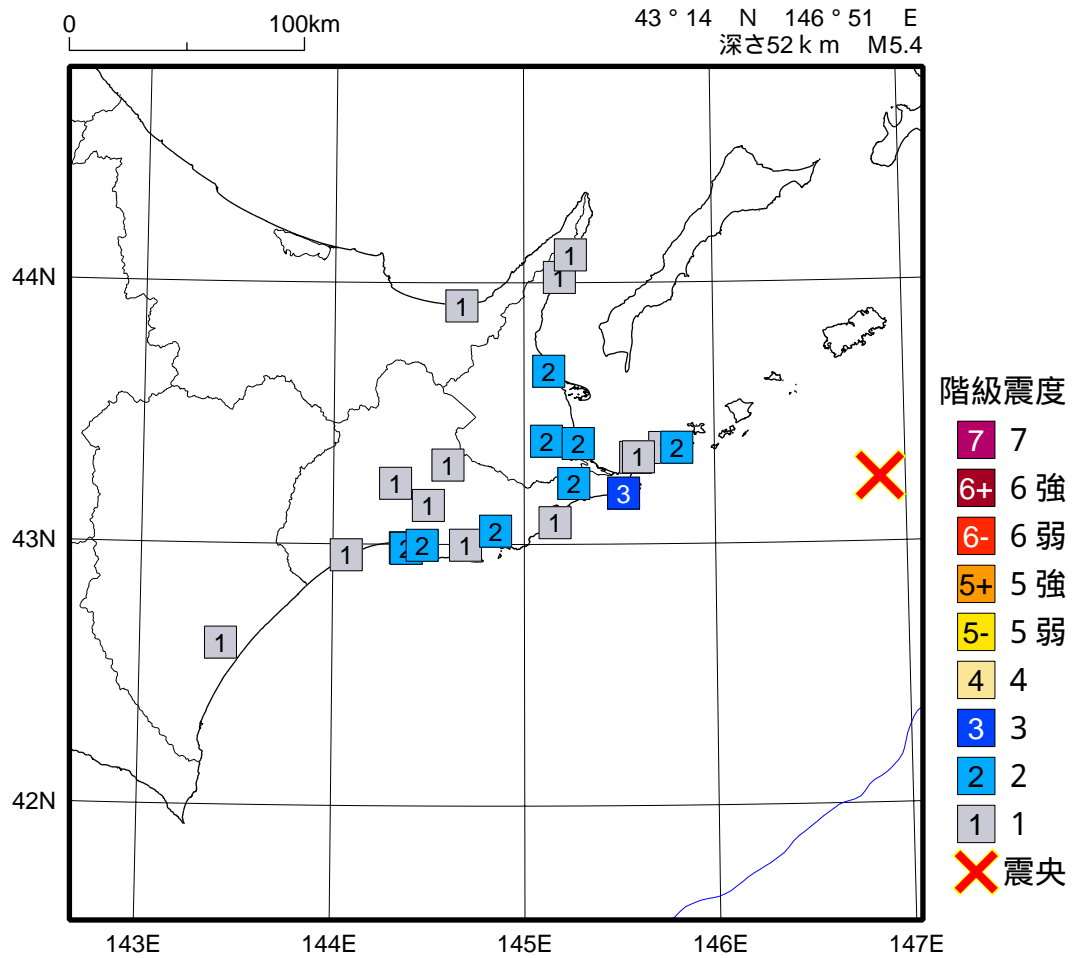
\*のついている地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

( )内の数値は0.1単位の詳細な震度(計測震度)の小数点を省略して表しています。

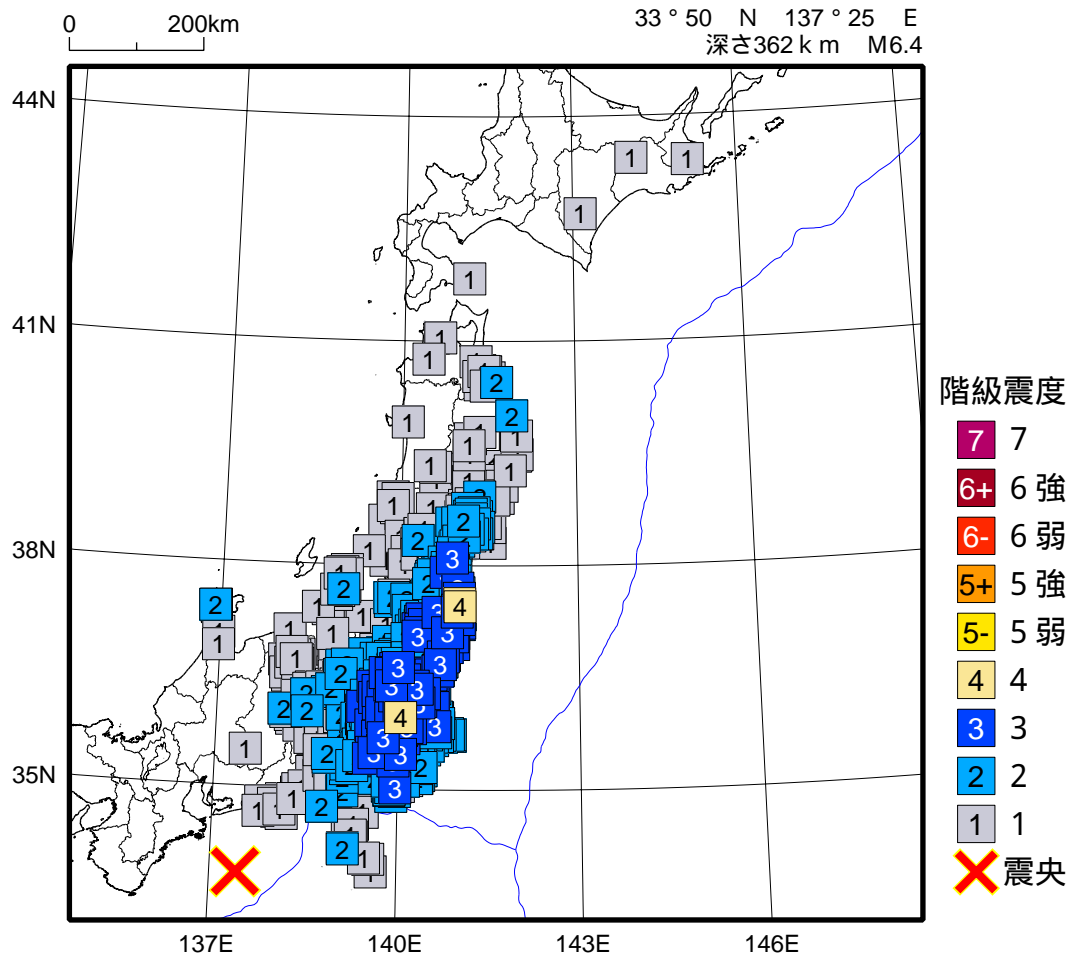
## 計測震度と震度階級の関係

計測震度	~0.4	0.5~1.4	1.5~2.4	2.5~3.4	3.5~4.4	4.5~4.9	5.0~5.4	5.5~5.9	6.0~6.4	6.5~
震度階級	0	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7

2022年11月 6日13時23分 北海道東方沖の地震の震度分布図



2022年11月14日17時08分 三重県南東沖の地震の震度分布図







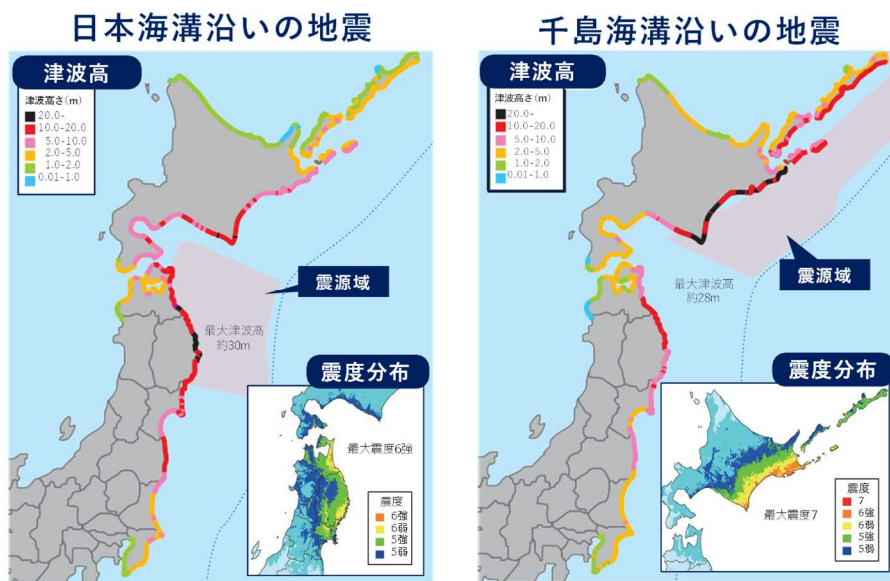
## 【防災メモ】

# ～日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震と「北海道・三陸沖後発地震注意情報」～

### ○日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震

日本海溝・千島海溝沿いの領域では、過去に大きな地震や津波が繰り返し発生しています。津波の痕跡の調査から、平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）の大津波に匹敵するような最大クラスの津波は、約300～400年間隔で発生したと推定されており、17世紀に発生した前回の巨大地震・大津波からの経過時間を考えると、最大クラスの津波を伴う巨大地震が切迫していると考えられています。

巨大地震・大津波が発生すると、北海道では、吹雪や積雪により避難に時間を要することや、屋外や寒い屋内での避難は低体温症のリスクが生じるといった、積雪寒冷地特有の課題もあり、広範囲で甚大な被害が発生する恐れがあります。ただし、事前の備えと迅速な避難を行うことで、人的被害の8割は軽減可能とされています。



最大クラスの地震で想定される津波と震度

### ○北海道・三陸沖後発地震注意情報


日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震は、そのほとんどが突発的に発生するため、平時から防災対策を徹底することが重要ですが、この領域では、モーメントマグニチュード ( $M_w$ ) \*7以上の地震（「先発地震」と呼びます。）が発生した後、数日程度の短い期間において、さらに大きな  $M_w$  8以上の大規模な地震（「後発地震」と呼びます。）が続いて発生する事例が確認されています。このことから、甚大な被害を少しでも軽減するため、後発地震への注意を促す、「北海道・三陸沖後発地震注意情報」の発信を2022年12月16日から開始します。

なお、「北海道・三陸沖後発地震注意情報」発信後、実際に後発地震が発生する可能性は、世界的

な事例を踏まえても 100 回に 1 回程度であり、必ず発生するわけではありません。情報が発信された場合には、社会経済活動を継続した上で、地震への備えの再確認や、すぐ避難できるように準備するなどの防災対応をとるようにしましょう。

※断層の面積やずれの量などをもとにして計算されるマグニチュードを、モーメントマグニチュード(Mw)と言います。地震情報等で速報的に報じるマグニチュードよりも物理的な意味が明確で、地震エネルギーと対応が良いですが、算出にある程度の時間を要します。

## 北海道・三陸沖後発地震注意情報



**■ 発信条件**  
**想定震源域でMw7.0以上の地震が発生**  
 ※その周辺でも地震の規模によっては発信

**■ 発信方法**  
**気象庁・内閣府の合同記者会見**

**■ 防災対応をよびかける期間**  
**地震発生から 1 週間**

**■ 発信の頻度 (想定)**  
**概ね 2 年に 1 回程度**

**■ 防災対応をとるべきエリア**  
**津波高 3 m 以上または震度 6 弱以上が**  
**想定される地域** ※左図の着色された市町村

※この情報は、大規模地震の発生可能性が平時よりも相対的に高まっていることを伝える情報であり、情報が発信された場合でも後発地震が発生しない可能性が高いことに留意。

巨大地震が発生した場合に、北海道から千葉県にかけての広い範囲で想定される甚大な被害に対し、1 週間程度、備えの再確認や迅速な避難態勢の準備を。

枕元に靴等を置いて寝る



すぐに逃げ出せる態勢での就寝



非常持出品の常時携帯

インターネット



緊急情報の取得体制の確保

崩れやすいブロック塀等に近づかない



想定されるリスクから身の安全の確保



日頃からの備えの再確認

地震への備えの再確認とすぐ避難するための準備